

皆さん、こんばんは。まずは、今年も、このような素晴らしい宴の席を、ご準備いただきました長幹事の皆様に、心より、お礼申し上げます。楠朋会の皆様には、平素より本校の教育活動に格別のご理解と、物心両面にわたり、多大なご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、厚くお礼申しあげます。

ご承知のとおり、本校は、１９０３年に府立第９中学校として創立され、今年度で創立１１６年となります。今年度入学した１年生が、高校７４期生。私は、高校３０期生ですので、７４－３０の答えの大きさに、改めて、過ぎた年月をしみじみと感じております。貴重なお時間を頂戴いたしまして、現在の四條畷高校につきまして、お話させていただきます。

四條畷高校は、２０１１年に、大阪府の進学指導特色校（ＧＬＨＳ）の指定を受け、普通科に加えて、文理学科を併置いたしました。２０１２年に、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）、２０１４年に、同じく文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクール（ＳＧＨ）アソシエイトの指定を受けました。そして、昨年２０１８年には、全クラス文理学科となるとともに、スーパー・サイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）第Ⅱ期の研究指定を、新たに５年間受けました。さらに、今年度、ＳＧＨの後継事業である、ワールド・ワイド・ラーニング（ＷＷＬ）コンソーシアム事業連携校の指定を受けました。

現在の四條畷高校の最大の特色は、「課題研究」の充実です。本校では、オール文理学科になる以前から、生徒全員が課題研究に取り組んでおります。１年生で基礎を学んで、２年生で研究成果を発表し、３年生でその成果をまとめます。大切なことは、自分たちで課題を見つけて、本校教員、大学教授、民間企業、ＮＰＯの方や大学生、大学院生など、様々な人のサポートを受けながら、研究を行い、その結果をわかりやすい言葉や方法で発表する。その発表に対して、時には厳しい意見を受けながら、さらに研究を深めていく。そのことで、「思考力・判断力・表現力」を身につけるとともに、チームで取り組むことにより、「主体性・多様性・協働性」を養うことができます。そして、課題研究で培ったこれらの力こそが、大学進学後、そして社会に出てから一番求められている力だと、私は、固く信じております。

多彩な「国際交流活動」も、現在の四條畷高校の特色です。２年生の修学旅行は、１０月に３泊４日で台湾に行き、台北の松山高級中学校と交流を行います。１２月には、３４期生の眼科医服部匡志先生のご指導の下、ベトナムで医療ボランティア活動を行います。３月には、オーストラリアの姉妹校バンダバーグ州立高校で、体験授業とホームステイを行います。また今年度から、課題研究の優秀グループを、海外の高校生発表大会に派遣しております。この７月に、シンガポールで、２組が発表を行いました。

進路につきましては、近年、各大学が実施している特色入試に、日頃の課題研究の成果を活かし、積極的にチャレンジしてくれています。京大に１名、阪大に２名、新たに始まった神戸大に２名が、それぞれ合格しました。入試全体では、京大１０名（うち現役８名）・阪大２９名（うち現役１８名）・神戸大３１名（うち現役２４名）で計７０名（うち現役５０名）をはじめ、国公立大学には、１９２名（うち現役１３９名）が合格しました。昨年度は、京大・阪大・神戸大、合わせて６３名、国公立全体で１８５名でしたので、このように国公立大学の合格者数は、年々増加しております。最終的な進路先として、現役生のうち、約４割が国公立大学、同じく約４割が関関同立を中心とする私立大学、約２割が浪人という結果でございました。生徒も教職員も、ホントによく頑張ってくれていて、毎日の授業に加えて、隔週土曜日の全員参加の講習、放課後や長期休業中の講習、午後８時までの自習室の開設と、教職員の手厚い指導に、生徒たちもよく応えてくれています。毎年行っている「畷高アンケート」で、「先生は、生徒の質問によく答えてくれますか」「四條畷高校に入学してよ

かったと思いますか」に対する生徒の肯定的回答が、ともに96%であることは、私の自慢であり、誇りです。

部活動では、現在96%の生徒が何らかの部活動に参加しております。昨年度、近畿大会には、ソフトテニス、水泳、卓球、軽音楽、囲碁が出場し、囲碁は、全国大会にも出場いたしました。今年度は早くも、ソフトテニス、卓球、山岳、バドミントン、写真が、近畿大会、そして陸上、ソフトテニス、囲碁、軽音楽、珠算が、全国大会出場を果たしました。昨年度から、本校Webページ上に「部活動ブログ」のページを新設し、それぞれのクラブが、活動の様子を紹介しておりますので、ぜひご覧ください。私も「校長ブログ」で、生徒たちの活動の様子を紹介しております。

最近、新聞に、四條畷高校がよく登場しています。朝日新聞に、野球部とギターマンドリン部、産経新聞に、野球部と写真部。そして、毎日新聞「わたしの母校」に、7週連続で、7人のOB・OGの方が登場されました。担当記者さんのお話では、「皆さん、畷高のためならという愛校心が強く、お忙しいにもかかわらず時間をさいてくださいます。伝統校ならではのですね。」とのことでした。夏休みに、東大・京大・阪大・神戸大の研究室訪問を行っていますが、各大学にお勤めのOB・OGの方が、快く受け入れてくださいます。大学生・大学院生のOB・OGも「学生TA」(Teaching Assistant)として課題研究活動等の指導・助言に来てくれています。今年度は、高校67期～71期の計12名の学生がTAに登録してくれています。「四條畷高校を卒業することを誇りに思いますか」の質問に、94%の生徒が「はい」と答えています。これは、GLHS10校の中で、一番高い結果です。ありがたいことです。

四條畷市との連携も充実しております。課題研究グループによる「みんなの夢AWARD in 四條畷」での、町おこし企画の発表。そのうち、四條畷産の米を使った卵を使わないオムライス「サンタクライス」は、商品化されました。同じく課題研究グループによる、四條畷市公式紹介ビデオ[日本語版]の製作、及び四條畷市の国際友好都市であるドイツメアブッシュ市向け学校紹介ビデオ、四條畷市紹介ビデオ[英語版]の製作。生徒会による、四條畷小学校5年生対象の「スマホやネットの正しい活用について」の授業実施。放送同好会による四條畷市インターネットテレビ「なわちゃん!」への出演。サッカー部による「四條畷マラソン」「くすのきフォトロゲイニング in 四條畷」へのボランティア協力、など多彩な活動を行い、「Think Globally, Act Locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)を体現しております。

まだまだ、現在の四條畷高校について、お話したいことは、たくさんございますが、それはこの後の、宴席の中でと、させていただきます。今後も創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を堅持するとともに、「守る伝統から創る伝統」をモットーに、畷高らしい満足度の高い学校づくりに、教職員一同全力を尽くしてまいりますので、楠朋会の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、楠朋会の益々の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。